

実践1 防災教育プログラム初の自校化による実践

保内小学校の取組

周辺環境は？

- ◆山地と平地のさかい目
- ◆斜面では流水
- ◆平地部は、水が溜まりやすい。



保内小学校の年間計画

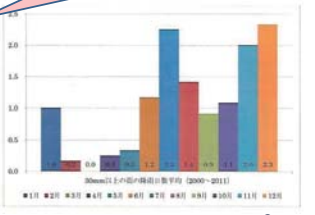
- ◆過去の災害と関連付け、バランスよく県防災教育プログラムを配置する。
- ◆地域の特性から、洪水の学習に重点を置く。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
防災学習		『地震』		『洪水』			『土砂災害』		『原子力災害』		『雪害』	『津波』
避難訓練		『避難経路確認』		『地震想定』	『不審者想定』				『防災想定』		『積雪時下校指導』	
防災関係			『新聞づくり』	『防災かべ』	『防犯キヤンパ』	『中学校区防炎訓練』	『中学校区防炎訓練』					

3年生の授業の流れ

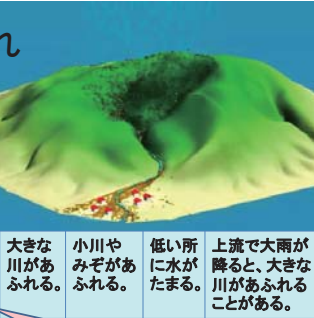
- ねらい 洪水災害に関する現象についての理解を深める。
- 学習の流れ
- ①大雨時の行動の復習
「高い所にいる」「流れる水に近づかない」「情報に注意する」
 - ②雨の多い月とその理由について考える。
 - ③街が洪水になる仕組みについて考える。
 - ④大雨の際、起こり得る災害について考える。
 - ⑤学習して分かったことを確認する。

7月の梅雨に、大雨になりやすい。



3年生の授業の流れ

- ねらい 洪水災害に関する現象についての理解を深める。
- 学習の流れ
- ①大雨時の行動の復習
「高い所にいる」「流れる水に近づかない」「情報に注意する」
 - ②雨の多い月とその理由について考える。
 - ③街が洪水になる仕組みについて考える。
 - ④大雨の際、起こり得る災害について考える。
 - ⑤学習して分かったことを確認する。



動画資料とフラッシュカードで説明する。

3年生の授業の流れ

- ねらい 洪水災害に関する現象についての理解を深める。
- 学習の流れ
- ①大雨時の行動の復習
「高い所にいる」「流れる水に近づかない」「情報に注意する」
 - ②雨の多い月とその理由について考える。
 - ③街が洪水になる仕組みについて考える。
 - ④大雨の際、起こり得る災害について考える。
 - ⑤学習して分かったことを確認する。



ニュース動画から、子どもの考えを探る。

【成果】

- 1) 子どもたちは、授業後、天候に関心をもち、天気予報を見て、天候に合わせた服装をするなどの行動をとるようになってきた。
- 2) 雨の多い7月に、全校一斉で洪水学習をすることで、子どもたちの洪水に対する意識を高めることができた。

【課題】

- 1) 自宅の立地条件により、児童の危機意識に差が見られる。この点をうめる手立てが必要である。
- 2) 保護者や地域への啓発と協力体制の構築を図る必要がある。

【「地域の危険箇所巡視」】

